

「最上のものは 将来にある！」～ブラックバーン校長の言葉～

副校長 細井 宏一

NHK 朝の連続テレビドラマ「花子とアン」が人気である。「赤毛のアン」の翻訳で有名な村岡花子の実話を元にしたストーリーだ。「こびつとがんばれし!」「てっ!」(驚いたときに使う言葉)といった甲府地方の親しみある方言や「ごきげんよう」の挨拶など、流行語大賞に選ばれそうな数々の言葉も印象的である。今週で最終回を迎えるようだが、私もすっかりはまってしまった。ビデオに録画し帰宅してから見るのが日課となっている。

「Go to Bed!」

このフレーズを聴いて「ああ、あれか…」と分かる方は「花アン」好きの方であろう。主人公「はな」が通っていた女学校の校長ブラックバーン先生の決め台詞である。生徒が何か悪いことをすると「Go to Bed!」となる。「ベットに行って反省していなさい!」といったところだろうか。おそらく、一昔前にはよくあった押し入れに入れられて反省するのと同じような事だろう。厳しくも暖かい校長先生で、実在する方かどうかはわからないが、ファンになった。私も恥ずかしながら「押し入れ経験」がある。何で叱られたのかは覚えていないが、押し入れに入ってとても反省したことは覚えている。今ではいい思い出だ。

ドラマの中で、女学校の卒業式シーンがある。ブラックバーン校長先生が力強く式辞を述べて、はなが同時通訳をする場面なのだが、その言葉に私はハッとさせられた。

「If some decade later, you look back on your time with us here and you feel that these were the happiest days of your life, then i must say your education will have been a failure.

Life must improve as it takes its course.

Your youth you spend in preparation because the best things are never in the past, but in the future.

I hope that you pursue life, and hold onto your hope and your dream until the very end of the journey」

(今から何十年後かに、あなた方がこの学校生活を思い出して、あの時代が一番幸せだった、楽しかったと心の底から感じるのなら、わたしはこの学校の教育が失敗だったと言わなければなりません。

人生は進歩です。若い時代は準備のときであり、最上のものは過去にあるのではなく将来にあります。

旅路の最後まで、希望と理想を持ち続け 進んでいくものでありますように) (ドラマ内の はなの訳)

衝撃的だった。特に「この学校生活を思い出したときに、その時代が一番幸せだった、楽しかったと心の底から感じるのなら、私はこの学校の教育が失敗だったと言わなければなりません。」を聞いたときである。「なぜ失敗なのか…」私は最初耳を疑った。そして次に「『大泉小学校の時が一番よかった、楽しかった』と子どもたちに思ってもらいたい」というのは、子どもの長い人生を考えると狭い見方であり、そのようなやや思い上がった考えをいつの間にか持っていた自分が恥ずかしくなった。ブラックバーン校長は言う。

「人生は進歩。最上のものは過去にあるのではなく、将来にあるのだ…」と。

なんと謙虚で前向きな言葉であろうか。子どもたちの将来の進歩を願い、そのために今をどうするか考えることの大切さに改めて気づかされ、礎となる学校を作り上げたいと、心に深く刻まれた言葉となった。

10月4日には本校の運動会がある。この経験も、子どもたちの将来に役立つものでありたい。

最後になったが、各PTA委員の皆様、おやじの会の方々に見回りや受付、椅子ふきなど、様々な点でご協力をいただけますこと、深く感謝申し上げます。